

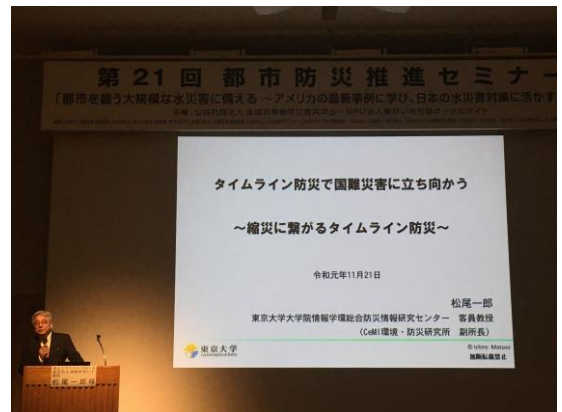
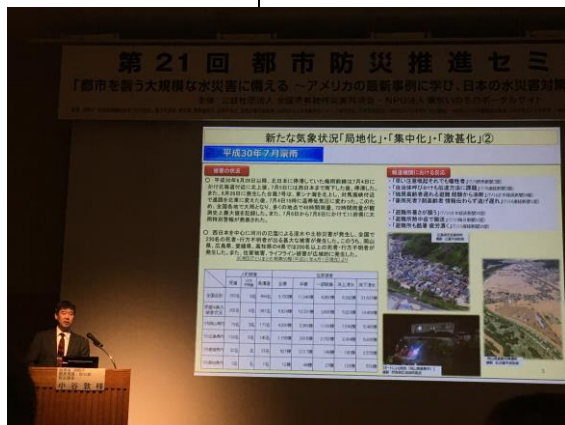
会派視察・研修報告書

会派名 市井の会

代表者名 松浦利実

1 日 に ち	令和元年11月21日(木)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	第21回都市防災推進セミナー「都市を襲う大規模な水災害に備える～アメリカの最新事例に学び、日本の水災害対策に活かすために～」 公益社団法人 全国市有物件災害共済会 NPO法人 東京いのちのポータルサイト 日本都市センター会館(東京都千代田区平河町2-4-1)
3 参 加 者	松浦利実、奥村孝宏
4 調査・研修の内容	大規模な水災害に備える
5 主 な 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・縮災 ・タイムライン防災 ・災害対策本部 ・豪雨時の対応 ・ハリケーン・ビーバーに学ぶ
6 所感、提言事項、 課題等	<p>【議員氏名】松浦利実 本市における「集中豪雨」被害は、この30年間に、平成3年、12年、23年と、まさに10年に1回の割合で発生している。 このデータからすると、来年若しくは再来年に発生することが十分考えられる。 土岐川流域の防災対策は講じたものの、最近の50年に1度とか100年に1度という豪雨の際、被害が出ないとも限らない。 市民・市役所とも日頃から積極的に防災に取り組むとともに、アメリカ(ヒューストン)の事例にもあるような英断を市長が下せるよう、特に市の災害対策本部の体制を強化していきたい。</p> <p>【議員氏名】奥村孝宏 最近の「ゲリラ豪雨」、「線状降水帯」等の極地的な豪雨は今世紀末まで、より頻繁に発生するとのこと。 こうした事案に対し、『縮災』に力を入れていかなければならない。台風が来ると分かっているならば、行政・市民がそれぞれの立場でできることをやる。 今年の台風19号でも屋外での犠牲者など、救えた命がいくつもある。そのために行政は、予防力と回復力を備えるよう努めていく必要がある。 本市が取り組んでいる「タイムライン防災」をより充実させ、十分な準備の下、『縮災』『減災』を図っていきたい。</p>

7 写 真 等
 ※視察の場合は必須、
 研修の場合は任意



※視察先1件に1枚作成すること。